



有中だより

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を！

3学期の授業がスタートして2週間が経過しました。1月8日（金）は、大変寒い中始業式を行いました。最近では寒さも和らぎ、春の訪れも感じられるようになりました。始業式においては、1. 新型コロナウイルス感染症予防に努めること。 2. しっかりと勉強すること。 3. 他の人を傷つけないこと。 の3点について話をしました。

また、1月13日（水）は、生徒会役員の新旧引継式が行われました。生徒会活動の中心が3年生から2年生へと移ります。自主性と行動力のある生徒会活動を期待しています。今後も保護者・地域に信頼され、生徒が誇れる学校づくりに邁進したいと考えていますので、温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

さて、年度当初から新型コロナウイルス感染症予防に努めていますが、国内の感染者数は依然として高い水準で、本県の新型コロナウイルス感染段階はステージ4に引き上げられ、特別警戒警報が発令されています。

このような状況を踏まえ、学習活動を工夫しながら、可能な限り、学校行事や部活動等を含めた教育活動を継続し、生徒の健やかな学びを保証していきたいと考えています。特に、以下の点については、家庭でのご理解・ご協力をお願いいたします。

- 感染が判明した場合又は濃厚接触者に特定された場合は、登校を控えさせてください。
- 発熱等の風邪症状がある場合は、自宅で休養させてください。
- 同居の家族に発熱等の通常と変わったことがあれば、その内容を学校に連絡してください。
- 登校前の検温、健康状態の確認等を徹底してください。
- マスクを必ず持参させてください。
- 十分な睡眠時間の確保、栄養バランスのとれた食事、手洗いの励行、毎日の入浴等に努めさせてください。
- 新型コロナウイルス感染症に関する差別や偏見の防止について指導してください。

※ 部活動については、当分の間、合同での練習会・練習試合・演奏会への参加など、他校との交流をしないことになっています。

なお、大会への参加については、県内に限り、該当地域の感染状況に注意し、認められる場合があります。



～学校給食について～

我が国における学校給食は、明治 22 年に初めて実施されたそうですが、1月 24 日～1月 30 日までの1週間を「学校給食週間」と定め、学校給食についての理解を深め、関心を高めるための取組が行われるようになりました。

子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

今週は、昨年度好評だった長崎県の郷土料理も提供されます。ご家庭でも食について話題にいただければ幸いです。

～英語での発表会開催～

冬休み中の1月6日（水）、南島原市イングリッシュ・パフォーマンスコンテストが実施されました。本年度は新型コロナウイルス感染症の関係で県大会が中止となりましたが、市内8中学校の代表者が英語でスピーチをして、盛り上がりのある大会となりました。

本校の代表者2名も堂々と発表し、努力賞を獲得しました。

○小山 和花（2年）

○土橋 愛音（1年）



2月の行事予定

1	月		
2	火		
3	水	公立高校前期入試	ノ一部活動
4	木		
5	金	全校集会	
6	土		
7	日		
8	月		
9	火	学年末テスト(3年)	
10	水	学年末テスト(3年)	ノ一部活動
11	木	建国記念の日	
12	金	学年末テスト(3年) 入学説明会	部
13	土		活
14	日		動
15	月		中
16	火		止
17	水	学年末テスト(1・2年)	
18	木	学年末テスト(1・2年)	
19	金	学年末テスト(1・2年)	
20	土		
21	日	家庭の日	ノ一部活動
22	月		
23	火	天皇誕生日	
24	水	専門委員会	ノ一部活動
25	木	校内スプリングコンテスト	
26	金	生徒集会	
27	土		
28	日		

※行事は変更になる可能性があります。

<校長室の窓から>

江戸時代の儒学者貝原益軒の著書の中に「小児を育つるは、三分の飢えと寒さを存ずべし。衣を薄くし、食を少なくすれば、病少なし」とあります。これは子どもを大切にせず、お腹いっぱい食べさせ、寒い思いをしないように十分に厚着をさせるのは良いことではなく、三分くらいの飢えと寒さを感じさせるくらいがちょうど良いという意味です。

今の子どもたちは、生まれた時から食べ物や着る物は十分にあり、江戸時代の生活環境とは比較できませんが、考え方は今に通じるものがあると思います。子ども時代に常に旨いものを食べさせ、厚着をさせて温かくしていたのでは、大人になった時に大きな禍（わざわい）を招くことがあります。

子どもの幸せは現在だけではなく、将来に繋がるものでなければなりません。いくら子ども時代に贅沢ができ、わがままができて、それだけでは子どもは幸せにはなりません。将来、自立して、世のため人のために尽くすことができるようになって初めて幸せといえるのではないのでしょうか。